

学校だより 7月号

令和3年7月1日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004
FAX 048 (547) 1467
URL
<http://koya-e-konosu.edumap.jp/>
e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp
毎月19日は「食育の日」です

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



心に寄り添う一言の大切さ
～たかが一言、されど一言～



校長 池澤 道弘

例年より1週間遅く、ここ10年では一番遅い梅雨入りとなった関東地方。これまでのところ雨量はあまり多くないようですが、やはり梅雨独特のムシムシした気候はうっとおしいものです。うだるような暑さがやってくるのも困りものですが、今は梅雨明けを待ち遠しく思っています。

少し前のことで恐縮ですが、6月5日の運動会では大変お世話になりました。感染症予防のため、昨年度に引き続き大きな制限のある中での運動会でしたが、子どもたちはひとつひとつの行動に全力で真剣に取り組んでくれました。来年度は、小谷っ子の頑張りを保護者の皆様だけでなく、地域の方にもお見せできる運動会にしたいと心より思っています。芝生の保全や会場準備等でご支援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

6月は運動会の他、校内硬筆展を行いました。令和元年度にNHKの「ひるまえほっと」という番組でも紹介されましたが、埼玉県は硬筆にとっても力を入れています。私が教員になった頃からこの時期は普通に硬筆展が行われていたので、当たり前だと思っていたのですが、どうやら、埼玉県ほど盛んな県はあまりないようです。そのような認識でご覧いただくと、また違った見方ができるかもしれません。来年度も多くの皆様にご来校いただければと存じます。

さて、この硬筆展について、以前ある冊子に次のような文章が載っていたのでご紹介します。

読売新聞地域面「ジュニア文芸」欄に県内のある小学校6年生女子児童の作文が載っていた。この児童は4年生の硬筆展で一生懸命練習してクラスの代表にはなれたが、目指していた県展への出品はかなわなかった。選ばれたのは同じクラスの友だちの作品だった。その時の様子を彼女はこう綴っていた。《悔しくて涙をこらえながら、廊下に貼ってある県展に選ばれた作品を眺めていた。すると、教室から先生が出てきて、そんな私に声をかけてくださった。「あなたの字は、見ている人を幸せにするわ…」》この時の先生の言葉は彼女の心に今も焼き付いているという。そして彼女は作文の最後を「これからも先生の言葉を胸に『幸せにする字』を、心を込めて書いていきます」と結んでいた。恐らく担任の先生は何かの用事で教室から出てきたのだろう。その時ふいに、廊下で県展に選ばれた作品をじっと見ている彼女と出会った。そして、思わず口にしたのがこの一言だったのであろう。彼女の哀しみにピタリと寄り添っている。(一部原文とは異なります)

この文章を目にして、高橋系吾さんの「その一言」という詩を思い浮かべました。もちろん一言には、逆に強い打ちをかけてしまう一言も存在します。

私たち大人も心に寄り添える一言が言えるよう、日々心がけていきたいですね。

その一言で励まされ、その一言で夢をもち、
その一言で腹がたち、その一言でがっかりし、
その一言で泣かされる
ほんのわずかな一言が不思議に大きな力をもつ
ほんのちょっとした一言で

学校評議員の紹介

令和3年度の学校評議員の皆様をご紹介します。

- ・林 和夫 様 (長寿会代表)
- ・岩崎 俊雄 様 (民生児童委員代表)
- ・小林 美鈴 様 (主任児童委員)
- ・福田 悟 様 (前小谷文化財保存会代表)
- ・瀬山 道子 様 (PTA顧問)
- ・小林 久恵 様 (PTA会長)

○6月11日(金)に第1回学校評議員会を開催し、学校評議員の皆様にご挨拶とお渡しするとともに、学校運営に対するご意見をいただきました。第2回は12月3日(金)に、第3回は2月25日(金)に実施する予定です。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

○島田 幸男様、小林 洋一様は、この度学校評議員をご退任されました。長い間ご尽力いただき、ありがとうございました。

